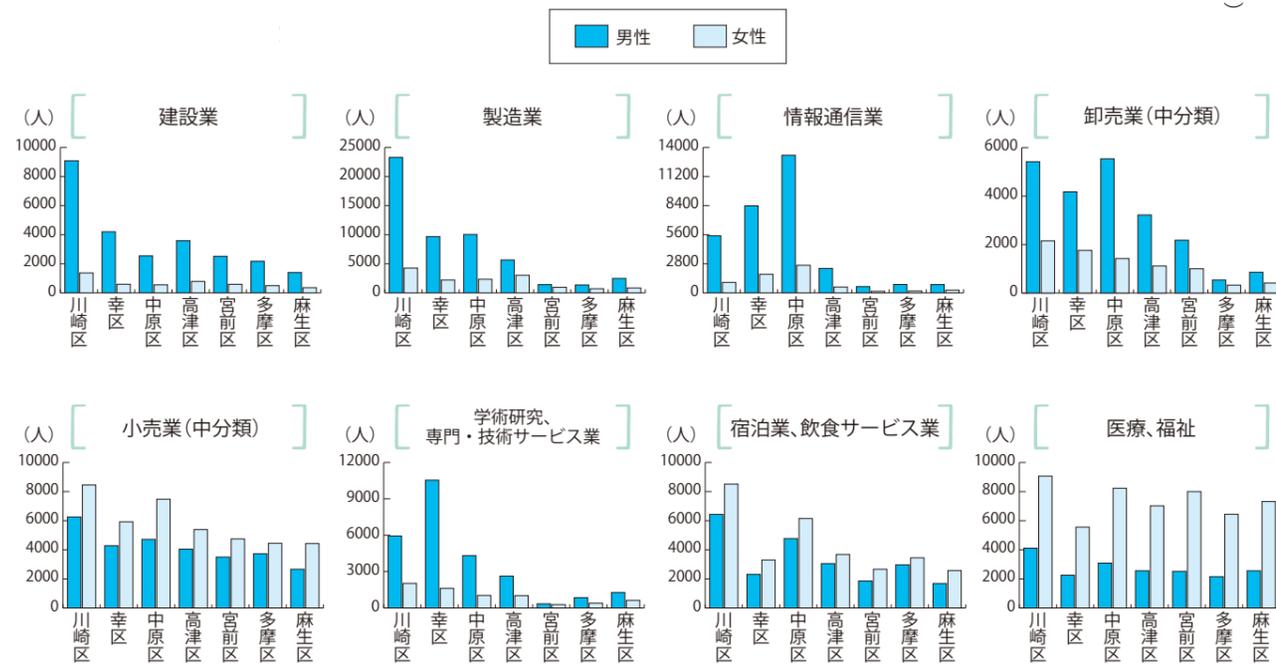
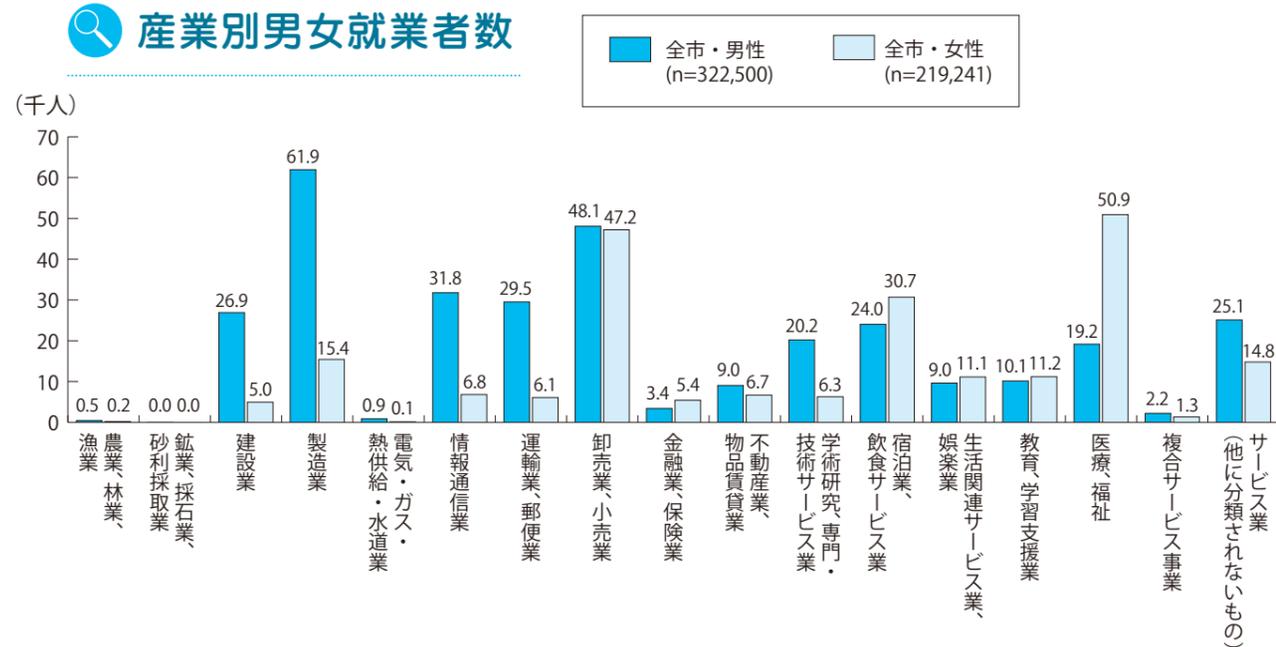


## 産業構造とジェンダー

ここでは、かわさきで働く人びとを「産業構造とジェンダー」という観点から見てみましょう。かわさきは、中小企業が多く集まっているエリアです。どのような特徴があるのでしょうか。グラフを見て考えてみましょう。

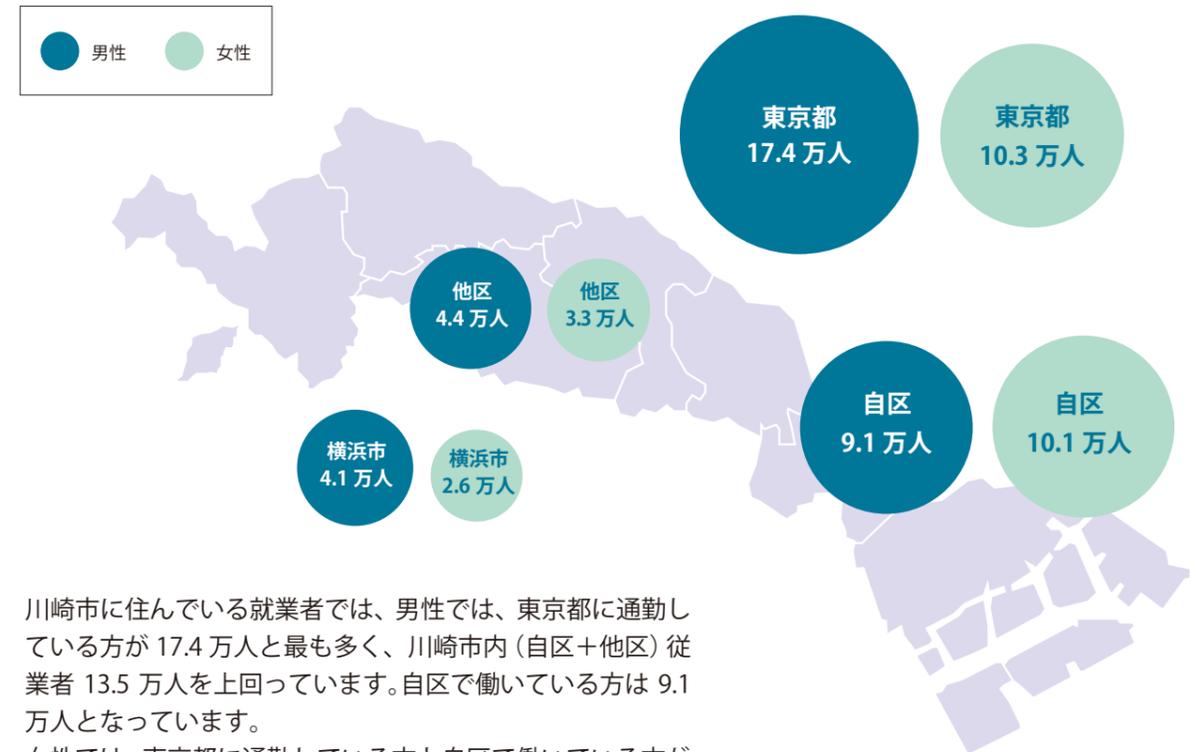
### 産業別男女就業者数



### 川崎市民男女の職業分離

かわさきで働く人びとを産業別で見ると、従事している業種が性別でかなり異なっていることがわかります。全市では、「医療・福祉」「宿泊業、飲食サービス業」などに女性が多く、「製造業」「情報通信業」「建設業」に男性が多くなっています。「卸売業・小売業」については男女ともに多くが従事しています。市内でも地域差があります。川崎区や幸区など南東のエリアでは、「建設業」「製造業」「学術研究、専門・技術サービス業」に従事する男性が多く、女性に多い「医療・福祉」「小売業」は区別で大きな違いは見られません。

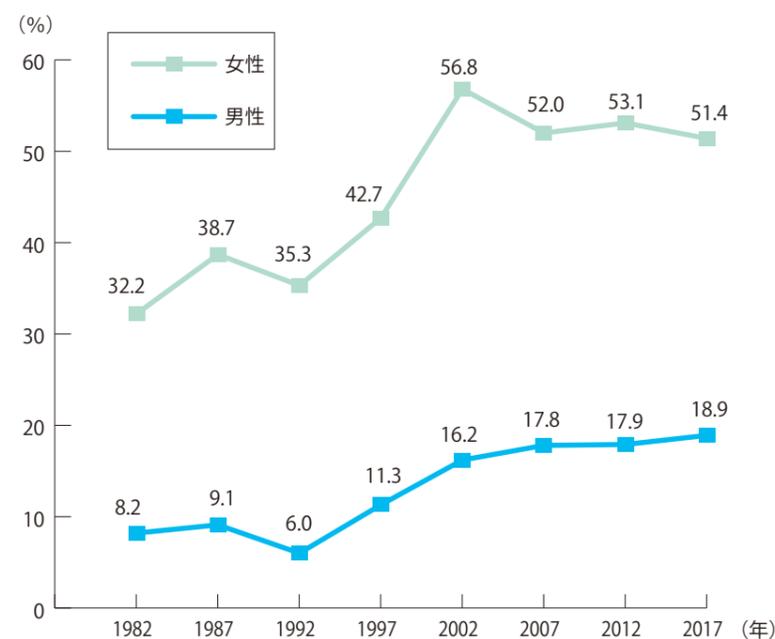
### 川崎市に住んでいる就業者の従業地



川崎市に住んでいる就業者では、男性では、東京都に通勤している方が 17.4 万人と最も多く、川崎市内（自区+他区）従業者 13.5 万人を上回っています。自区で働いている方は 9.1 万人となっています。女性では、東京都に通勤している方と自区で働いている方がほぼ同数で、男女差が顕著に見られます。

出典：総務省統計局「平成 27 年国勢調査」を元に作成

### 雇用者に占める非正規雇用比率の推移(川崎市)



川崎市の雇用者に占める非正規雇用比率を 1982 年から 2017 年までの 35 年間で見てみると、男性が 8.2%から 18.9%と 10 ポイントあまり増えたのに対し、女性では 32.2%から 51.4%と 20 ポイント近く上昇しており、より非正規化が進んでいることがわかります。全国で見ても、同様の傾向が見られます。

出典：総務省統計局「就業構造基本調査」時系列統計表を元に作成